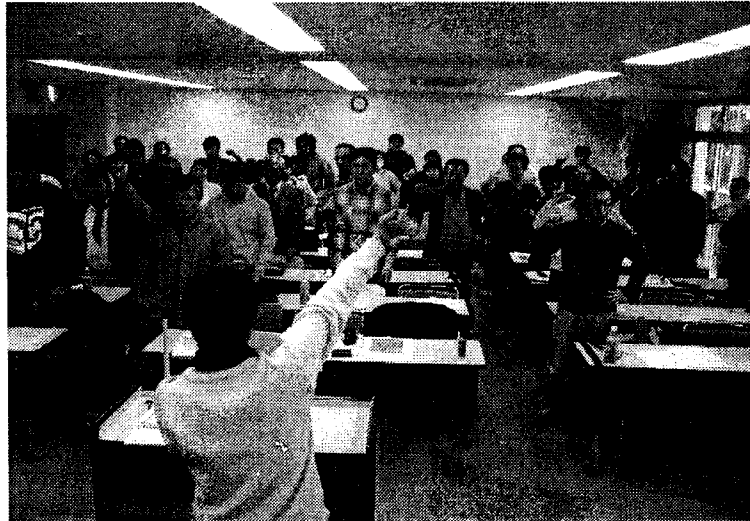


もう一つの日本は可能だ!

05春闘の闘争をすすめる社会へ

県労連第19回中央委員会開く

一月二十三日、高知城ホールで県労連の〇五春闘方針を決定する「第十九回中央委員会」が開催され、「すべての組織が『全労連統一要請書』を提出する」、「誰でも一万円以上の賃金底上げ」などを決定しました。



(畑山副委員長の音頭で「団結がんばろう」)

【春闘方針要旨】

一、どんな春闘として前進させるか

①急増している不安定雇用労働者、失業者、未組織労働者を含むすべての労働者を視野に入れた春闘

②共同を広げる地域春闘、青年春闘の追求

③改憲阻止、核廃絶のたたかいと結合した春闘

④組織拡大をめざす春闘

⑤全労連統一要請書を提出する春闘

二、賃上げ要求・闘争

原書記長から「プロ野球選手会のたたかひの経験でも明らかなように、たたかえば要求は前進することに確信を持って、すべての組合員の知恵と力で春闘に勝利しよう」と〇五春闘方針が提案されました。

午後からは十二名の評議員から春闘方針を深める発言があり、全会一致で春闘方針が決定されました。

第十九回中央委員会は中央委員、執行委員など五十名が参加しました。開会あいさつに立った高橋委員長は春闘解体攻撃をすすめる経団連を批判し、春闘五十年の節目に相応しいたたかひを高知県内で展開しよう、自治体キャリアバンでの首長や自治体幹部から小泉構造改革にたいする激しい怒りが表明された、

激しい怒りが表明された、

三、働くルール作りとCSR（企業の社会的責任）の追及

企業通信簿、働くルールチェックの運動、トヨタ行動 国鉄・NTT・郵政のたたかい強化、すべての組合が「不払い残業根絶」の取り組みを。

四、社会保障、消費税など国民共同の取り組み

大増税路線を許さないたたかい、介護保険制度改悪反対、自治体財政つぶし反対のたたかいで共同を広げる。

五、改憲阻止、核兵器廃絶のたたかい

「〇九条の会」などの共同組織とともに、世論と運動の高揚に役割を果たす。

六、組織拡大

すべての組織が「現勢の十パーセント増」をめざす。

〇五春闘の行動展開

◎ 二、二三地域総行動

全労連の「統一要請書」の一斉提出を重点行動とする。

また、国の出先機関に「県労連〇五年春闘要請書」を提出する

◎ 三、一七第一次全国統一行動

三、一六を回答指定日と設定し、一七日をストライキを含む第一次全国統一行動とする

◎ 四、二〇第二次全国統一行動

全労連の「もう一つの日本は可能だ!」第二次全国統一行動」を成功させる

◎ 四国総行動(3)

四国地区協の四国総行動を成功させる

◎ 憲法擁護のたたかい

2/11 建国記念の日に対する集会 3/30 九条の会記念講演会

などの節目の集いを成功させる

針路

憲法改悪の動きが急ピッチで進むなか、県内各地で「九条の会」立ち上げのニュースが流されている。高知市の小高坂を皮切りに、土佐市、野市町、中村市、土佐山田町、南国市などで結成され、県労連中央委員会では嶺北労連の代表からも地域組織結成の準備がすすんでいることが報告された。そして同じく県国公の仲間からは「職場九条の会」の組織化の話も出された。通常国会も始まり、改憲勢力は「国民投票法案」などの上程、さらに憲法改悪と連動する「教育基本法改悪強行」を狙っている。いよいよ護憲勢力のたたかひは正念場を迎えているが、「憲法九条を守る」の声が思想・信条の違いを越えて存在していることが希望である。戦争を体験した方々の「平和憲法を守れ」の訴えは説得力がある。小生は戸籍上次男である。兄は「満州」で生まれ一歳にも満たないうちに栄養失調で死んだそうだ。父親は捕虜としてシベリアに送られ、脱走して母と再会。その後、小生を含む三人の子どもをもうけた。戦後生まれの小生にも戦争が影を落としている。「子や孫たちに平和を」と今年の年賀状に書いた言葉である(高)



21世紀に向け 憲法九条 高知の夕べ



三木睦子さん

1917年生まれ。故三木武夫元首相夫人。



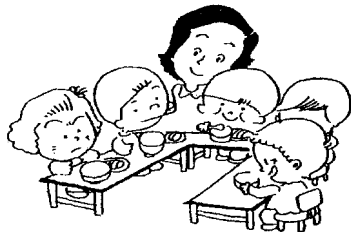
小田実さん

1932年生まれ。ベトナム反戦運動などで活躍。

講師のお二人は、昨年6月、井上ひさし、梅原猛、大江健三郎、奥平康弘、加藤周一、澤地久枝、鶴見俊輔さんと「九条の会」を立ち上げました。

- 3月30日(水)午後6時30分～
- 県民文化ホール・オレンジ
- 入場無料

主催：こうち九条の会



「住民の繁栄なしに自治体労働者の真の幸せはない」
 「県内労働運動の真の統一を」で50年の歴史刻む

高知自治労連が50周年レセプション

今年二月、高知自治労連の前身である「高知県市町村職員組合連合会」（市町村職連）の結成から五十年を迎えます。高知自治労連は節目の年を祝い、今後の奮闘を誓い合うレセプションを開催しました。

五十周年レセプションには現役の組合員、歴代の幹部はもとより、県・高教組、医労連、福祉保育労組など県労連加盟の仲間も出席しました。

参加者は、「政党支持自由」の原則を堅持して、自治労との激しい組織戦をたたかった諸先輩の労苦を経験しました。

たまたかう全国産別に結集できた喜びを分かち合うとともに、市町村合併のなかで自治労との組織「合流」を拒否して自治労連の旗を守り抜いた旧吾北村支部の仲間の奮闘に感動しました。

また、土佐山田町じぶんさん保育所民間委託阻止闘争の寸劇も演じられ、自治労連の輝かしい歴史を振り返りました。

さらに、「自治体退職者会」の組織立ち上げについても報告されました。これまで、退職教職員の組織が地域運動で大きな役割を果たしてきましたが、退職自治体職員の今後の奮闘が期待されます。

小泉内閣の「三位一体改革」による自治体つぶしは市町村長、議会、自治体幹部に激しい怒りを抱かせており、この攻撃をともしにはねかえす条件が広がっています。

高知自治労連の引き続き奮闘が期待されます。

労働審判員に島内亮さんを推薦 高知組合一般組を推薦



県労連第十九回中央委員会は、二〇〇六年四月からスタートする労働審判制度の審判員に高知一般労働組合の島内亮副組合長を推薦することを決定しました。

島内さんは長崎鉄工所分会書記長、地域支部支部長を経て九六年からホテル支部支部長をつとめて

います。

〇三年から高知一般執行委員、昨年十月からは高知一般副組合長として奮闘しています。

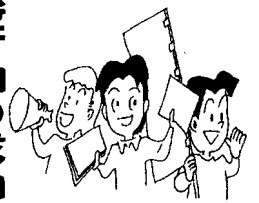
織田親光が経営するホテルの夜勤勤務ですが、残業手当の支払いを求めて裁判闘争をおこし、最近では全従業員を中退共に加えさせるたたかいでがんばっています。

中央委員会では、「県内の八割の労働者が未組織で劣悪な条件に喘いでいる。そうした労働者の琴線に触れる労働運動が求められている」と労働審判員として全力をあげたい」と力強い決意を表明しました。

全労連統一要請書 県労連春闘要請書の提出 産別要求書



二・三地域総行動の成功を



街頭での宣伝

高知市の行動展開

- 一、早朝宣伝 〇5春闘全労連新聞号外配布行動(五ヶ所)

- (1) JR高知駅東・西
- (2) はりまやばし四銀前・西武前
- (3) 公園通り
- (4) 県庁前
- (5) グランド前

- 二、県労連〇5春闘要請書・産別春闘要求との共同提出行動

- (1) 国・出先機関
- ① 高知労働局
- ② 高知法務局
- ③ 国土交通省高知陸運支局
- ④ 高知社会保険事務所
- ⑤ 国土交通省高知河川国道事務所
- (2) 全労連統一要請書と産別要求書との共同提出行動

- 三、夕方、宣伝・周辺地域ピラ配布行動

3.2 四国総行動

JR四国 経済産業局 四国整備局
 運輸支局 高松国税局 四国電力
 などへの申し入れ
 &
 集会とデモ
 12時～ 高松駅前



※ 高知市以外については、高知市の行動を参考に別途、依頼のお知らせをします。